

2017年

226号

3月22日(水)

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部

〒343-0845

埼玉県越谷市南越谷2-13-49

(越労連内)

TEL・FAX 048-989-2472

E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp

第32回シテイウォーク

温かい春の陽射しの中
横綱力士碑を探索

3月18日(土)、寒の戻りの後の穏やかな春の陽射しの朝9時に新越谷駅に集まったのは吉田(健)、吉田(和)、樋口、内藤、坂本、足立、伊東(正)、鈴木(と)、五十嵐の9名。相撲の春場所横綱になったばかりで絶対調の稀勢の里にあやかり、歴代の大関、横綱の名が刻まれているという富岡八幡宮の探索に向かう。先ず清澄白河駅に半蔵門線で向かう。

久しぶりに乗る半蔵門線の電車で気がついたのはつり革の長さが3種類あった事です。短いものと普通のものの間に何本かに一本長いものがまじっていました。乗客の背の高さに考慮したのかなと思います。アイデアだと感じしました。江東区の清



澄白河駅で降り、清澄庭園へ。65歳以上のシルバー割引70円の入場料を払い庭園を見学。中央にある大きな池の周りの岩には亀が暖かな陽射しをあびてじっと動かない。池の中には鴨が群れをなしてゆつくり回遊していた。白い梅が最後の花をつけ、来週には咲きそうな桜の芽の緑がまぶしい。



拝。境内には力持碑と力石がいくつも置かれていて。奥に入ると高さ3・5メートル、巾3メートルの巨岩に掘られた横綱力士碑が。裏面には歴代の横綱の名が彫り込まれて残念ながら稀勢の里はまだ彫り込まれていなかった。せっかくなので横綱力士碑の前で記念撮影。

30分ほど歩いて木場公園へ。土曜日で天気も良いという事で家族連れがお弁当持参でいっぱい来ていました。中にはバーベキューをしている人も。私達もシートを広げ、風もなく暖かい陽のもと、持ち寄りの手作りの惣菜やビール、梅酒などで一時間ほどゆつくり歓談しながら食事。元の清澄白河江駅まで全コース約6kmのウォーキングでした。(五十嵐)

点晴

右を向いても左を見ても
馬鹿と阿呆の絡み合い

「何から何までまっ暗闇よ 筋の通らぬことばかり」往年の任侠映画スター、鶴田浩二の歌の一節である。

東日本大震災、東京電力福島第1原発事故から6年を経たが、被災地の復興は未だ道半ばで、多くの人々が生活の立て直しに苦労している。福島では今も8万人以上の人々が避難生活を余儀なくされ、「収束」とはほど遠い状況である。にもかかわらず例の「長靴政府高官」は「業界はもうかつての」との放言で、被災の人々の感情を逆撫でし、その責任を取って辞任に追い込まれている。政府は原発事故の原因究明も果たさぬまま、再稼働に舵を切り、あまつさえ「原発輸出」「武器輸出」を進めようとしている。様々な理由で、自主避難をした人々への住宅支援を打ち切り、生活への不安を倍加させようとしている。

文部科学省の官僚の天下り問題はその違法性の解明もされぬまま、テレビや新聞では「森友学園」問題が報道され、政府与党は揉み消しに走るが、一向に沈黙化に向かう兆しもない。国民の疑惑解明への要求は高まるばかりだ。「関係者を国会へ招致すべし」の声が七人八割にも達すると伝えられるが、自公はあれこれ屁理屈を弄して受け容れようとしなない。学園の幼稚園では園児が教育勅語を暗唱朗読する映像が流され、その度に支持率は数パーセント下落するが、それでも安倍政権のそれは50%前後である。

教育勅語は、敗戦後国会で論議され失効が議決された代物である。理事長が「何が悪い」とうそぶこうが、アベ首相が共鳴しようがその妻が名誉校長(すぐ辞めた!)になろうが、われわれがダメな物として葬ったという事だ。

お先は真つ暗で、暗澹たる気持ちになるがめげることではない。「天網恢恢疎にして漏らさず」天罰は必ず下る。

「絶望のど真ん中にこそ希望がある」(むのたけじ) (広瀬久雄)

次回の宣伝活動 4月19日(水曜日) 12時～13時 南越谷駅南口